

中小製造現場で実践する 儲かる現場の品質管理 10のポイント

〈品質不正を未然に防ぐ仕組みづくり〉

(株)工場経営研究所 代表取締役

伊藤 哉 Hajime Ito

〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-28-4
TEL(03)5860-4179 E-Mail:itoh@koujoukeiei.jp
URL:http://www.koujoukeiei.jp

第7回

品質危険予知活動

point 7

“ 儲かる現場は
起きる前に考える ”

問題が起きてからの対応はすったもんだになりやすい。冷静に分析して対応策を講じたいところだが、つい感情的な発言をしてしまい…。経営者や管理者のこうした振る舞いが品質不正を引き起こす。誰でも面倒なことには巻き込まれたくない。品質問題の原因は個人ではなく、仕事のやり方にあると冷静に議論できるだろうか？ そうした雰囲気がなければ、作業者は自分の身を守ることを優先するので、正しい情報がもたらされない。経営資源に制約がある中小製造現場では、問題発生を未然に防ぐことに全力を傾けたい。今回は「品質危険予知活動」を取り上げる。

【事例解説】

W社は、アルミニウムや亜鉛などの非鉄金属の重力鑄造による部品製造を事業の柱としている。A社長が先代社長の父親から事業を引き継いだのは5年前であり、品質へのこだわりをもって会社を成長させようとしてきた。そうしたA社長の思いが浸透しているW社では、各種の品質向上活動が展開されており、その1つである品質危険予知はA社長の指示で2019年から始められた。品質危険予知活動では毎週

儲かる現場は
起きる前に考える

儲からない現場は
起きてから考える

1回、各工程のリーダーが集まって品質に関する「起こり得る問題点」を検討している。B課長がまとめ役となり、5人のリーダーが本音で品質の懸念事項を議論する。先日の議論では、梱包工程のCリーダーが「先週から始めたブッシュ取付け後のマーキングですが、作業に追われてマーキングが抜けてしまいそうです」と申し訳なさそうな表情で口火を切った。